

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2018年10月号 第135号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円 (会員は年会費に含まれています)

これからのお知らせ

11月定例会

あと10人お早めに!!

施設見学『公益社団法人やどかりの里』

11月29日(木) 雨天決行

- ・集合時間 8時00分 集まり次第出発
- ・集合場所 平塚駅南口 農協ビル前
- ・募集人数 20人
- ・参加費 家族会員3200円 当事者2200円 (研修費・昼食代・保険代含む)
- ・申込先 ☎080-2071-5909 渡辺みどり
- ・申込締切 11月20日(火)
- ・見学内容 11時~13時 やどかり情報館
施設説明・昼食・施設見学
13時30分~14時30分 サポート
ステーション見学・生活訓練
・ショートステイ

《施設概要》昭和45年、精神障害者の福祉的活動が認知されなかった時代に、精神科病院退院者の中間宿舎として活動を開始。主体化された市民が組織を運営。公的補助金がない20年間を会員が支えてきた。その後、メンバーの要請に応じて様々な活動を生み出し、現在さいたま市内に10数か所の施設を持ち、300人余の障害者たちが、やどかりの里を利用しながら地域生活を送っている。

やどかり情報館 さいたま市見沼区染谷 1177-4

TEL 048-680-1891 Fax 048-680-1894



12月定例会

講演会「精神科医療の改革と展望」

講師 氏家 憲章氏

社会福祉法人うるおいの里理事長

12月11日(火) 13:30~15:30

場所 ひらつか市民活動センターB会議室
先進諸国では入院日数を短くし地域生活重視へと変わる中、日本では未だに入院医療が中心となり長期の入院者が多数います。この現状を変えるにはどうしたらよいか、日本の精神科医療に詳しい講師のお話をお聞きください。



神奈川県精神保健福祉家族住民交流事業

第45回 県民の集い NPO法人じんかれん

「当事者一人一人が自信をもって 生きて行くには」

～オープンダイアログ(開かれた対話)

によるリカバリーを目指して～

講師 森川 すいめい氏 精神科医

11月10日(土) 13:00~16:00

海老名市文化会館小ホール 海老名駅西口歩7分

入場無料 当日参加可 定員300名

フィンランドで開発された治療法の日本における第一人者を講師にお迎えします。
奮ってご参加下さい。

*お問い合わせ NPO法人じんかれん

TEL 045-821-8796 火・木10時~16時

*交通費の補助あり。お名前をお知らせ下さい。

谷田川まで 090-3519-8692

9月定例会報告

9月11日 平塚市の障害福祉制度の説明と就労移行支援事業所ペガサス平塚の説明会を行いました。(以下概要) 参加者17名

《障害福祉サービスについて》

平塚市障がい福祉担当 吉田優人氏
障害者福祉政策の変遷

◆平成14年まで 措置制度

事業の実施主体である市町村が社会福祉法人や社会福祉協議会などに事業を委託し、必要と認められた障がい児者に支援を実施。

◆平成15年～17年まで 支援費制度

障がい者がサービス提供事業者を選択し、契約を結んでサービスを受ける、自己選択、自己決定制度へ転換。提供されたサービスに対し、行政が事業者に給付。財政が給付増に耐えきれず、実施3年で制度が破たん。

◆平成18年～24年まで 障害者自立支援法

応能負担から応益負担(1割)へ。障がいの種類に関わらずサービス利用ができるようになった。就労支援の強化、地域生活への移行、障がい程度区分導入による支給決定基準の明確化がされた。

◆平成25年～現在 障害者総合支援法

障害者自立支援法を改正。障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援。

障害福祉サービスの対象者

身体障がい者 知的障がい者 精神障がい者
難病等対象者(359疾病)

障害福祉サービスの種類

♥全国統一のサービス

- 介護給付・居宅介護(家事援助、身体介護等)
 - ・重度訪問介護 ・短期入所
 - ・同行援護 ・行動援護 ・生活介護
 - ・重度障害者等包括支援 ・療養介護
- 訓練等給付・自立訓練(機能訓練、生活訓練)
 - ・就労移行支援 ・就労継続支援(A型、B型) ・就労定着支援
 - ・自立生活援助 ・共同生活援助

地域相談支援・地域移行支援 ・地域定着支援

♥市町村独自のサービス

地域生活支援事業・地域生活支援センター

- ・日中一時支援 ・移動支援
- ・訪問入浴サービス

♥その他行政が行っているサービス

重度障害者医療費助成制度、タクシー券
障害福祉サービスを利用するには

- 障害支援区分が必要:介護給付
 - 〃 必要ない:訓練等給付 地域相談支援 地域相談支援事業
- サービス等利用計画が必要:介護給付 訓練等給付 地域相談支援
 - 〃 必要ない:地域相談支援事業

(障害支援区分とは サービスの種類や量などを決定するために本人の心身状態を総合的に表すもの。区分0～6迄 原則3年で見直し 区分によって受けられるサービスや支給量が異なる)

障害福祉サービスの対象者は

基本的には18歳～65歳未満
介護保険サービスの利用が優先される

相談窓口

●通所先やヘルパーの相談は

- 身体障がい:ソーレ平塚生活支援センター
0463-37-1776
- 知的障がい:サンシティひらつか
0463-37-1622
- 精神障がい:ほっとステーション平塚
0463-25-2728

●手当や手帳の新規取得の相談は

障がい福祉課 126番窓口へ



《ペガサス平塚センターについて》

井上 哲郎氏

精神障がい者・発達障がい者の就労移行支援事業所として平成30年5月に開所。

就職までの流れ

訓練→実習→就職活動 就職後(定着支援)

訓練期間2年

- ・生活リズムを作る
- ・就職に必要なスキルを身に付ける
- ・コミュニケーション訓練
自己理解、自己体調を伝える訓練
- ・企業実習1か月
- ・就職活動 ハローワークとの連携 採用前実

習を行い会社との連携を深める

・定着支援 就労先訪問 個人相談など

主なプログラム

- ①実務訓練 PCを用いて入力、検品、書類作成
- ②軽作業訓練 郵便物仕分け 計量など
- ③自己理解講座 自分の特性 ストレス対処など

利用料金 世帯収入によって異なる

(世帯の収入状況) (負担上限月額)

生活保護受給世帯 0円

市町村民税非課税世帯 0円

市町村民税課税世帯 9,300円

上記以外 37,200円

事業所所在地 ペガサス平塚センター

〒254-0042 平塚市明石町1-17

チェアブル湘南3F

TEL0463-74-6683 Fax0463-74-6684



その他の報告

「あなたも大切な人も ころろが ほんと 楽になる方法」

～忙しく働くあなたと大切な人に伝えたいこと～

9月23日 平成30年度神奈川県・小田原市自殺対策講演会が小田原市保健センターでありましたので報告します。(以下概要)

講師の澤登和夫氏(株式会社ありがトン代表うつ専門カウンセラー 精神保健福祉士)は、会社員時代に過労と心労からうつ病を発症し、以後5年半にわたり重度のうつ病生活を送ってきた方。現在はうつを乗り越え、カウンセラーとして全国各地で自殺対策などの講演を行っています。

「す・な・おの法則」の法則

周りの人も自分も幸せになるシンプルなコミュニケーション

すごい なるほど おもしろい

自分自身に“間”がある事

ゆとりがなければ伝わらないし、入らない。

“間”を作るには

手放す (物、時間、関係、気持ち、などなど) あなたは何を手放しますか?

あれ! 家族(友人)の様子がおかしい?

人と自分への寄り添い方を身に付けていこう。

「うつつ度チェック」ここ2週間位続いていますか?

- ほとんど1日中憂鬱である
 - 以前は好きだったことも楽しめない
 - 食欲があまりない
 - 寝付けない、早く起きてしまう
 - いらいらしたり落ち着きがない
 - からだが疲れやすい
 - 自分に存在価値がないと感じる
 - 仕事や家事への集中力、決断力がない
 - この世から消えてしまいたいと思うことがある
- (5つ以上の場合は要注意)

あなたが大切な人にできること

- 1 気づく 2 声をかける 3 聴く (耳+目+心)
- (五感全てを使って) 4 必要な支援につなげる (信頼できる人に。医療に。行政に。)
- 5 見守る (信じる あなた自身の時間も大切に)

人生をやめたい程しんどかった時

- 極限までいった ○ ○感 (孤立)
- ○感 (無力)

ゲートキーパーとは

気づく 声をかける 話を聴く つなげる 見守る 人

忙しい自分にできること 自分自身に声をかける 自分に寄り添えると相手への寄り添う力もUP 人が持っている4つ+1つの「たい」

- 1 愛されたい 2 認められたい 3 褒められたい
- 4 役に立ちたい 5 生きたい

自分が凹んだ時、自分にどんな声をかけますか? 自分にプレゼントをあげるとしたら?

あなたが大切な“自分”に出来ることは?

どんどん増やして行こう!

「死にたい」と言っている人も、「生きたい」気持ちを持っていることを忘れないで。

元気になったきっかけは、電車で席を譲ってあげたおばあさんが、「ありがとう」を何回も言ってくれたこと。

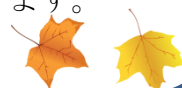
(y、y記)

「障害者の日」キャンペーン

11月17日(土) 13:30~15:30

OSC 湘南シティオープンモールにおいて行います。とびっきりレインボーズの歌と演奏、フリースタイルフットボールの実演もあります。

みなさま お出かけください。



その他のお知らせ



全国精神保健福祉会連合会

2018 関東ブロック大会in栃木

「豊かな明日を築くために」

～家族と当事者の自立に向けて～

日時 平成30年10月26日(金)

開会 10:30～15:50

会場 宇都宮市文化会館小ホール

基調講演 タイトル「脳と心」

～見えるものと見えないものの意味～

講師 東京都医学総合研究所副所長

糸川 昌成氏

参加費無料 定員500名

当日参加できます

NPO 法人じんかれん研修会

「障害年金受給のポイント」

講師 白石 美佐子氏

日時 平成30年12月4日(火)

10:00～12:00

会場 かながわ県民センター304会議室

(横浜駅西口徒歩5分よどばしカメラそば)

参加費・申込 不要

〈白石美佐子氏プロフィール〉

社会保険労務士 月刊みんなねっと誌に「続・事例からみる精神障害者の障害年金の実際」を連載中。障害年金問題で全国各地で講演。障害年金受給に際してのさまざまな問題について分かり易く説明して下さいます。

皆様の参加をお待ちします。

サロンあゆみからのお知らせ

10月は福祉会館まつり参加のため、お休みとなります。11月16日はありますので奮ってご参加下さい。

矛盾だらけの障害年金

認定医の氏名非公開

審査の公平性欠く懸念

(9月20日中日新聞より抜粋)

障害年金の支給を決める上で、大きな影響力を持つのが、障害の程度を審査する認定医だ。千人を超える障害基礎年金の受給者が症状に変化がないまま、支給停止や停止の予告を受けた問題も、昨年4月に認定医が大幅に入れ替わったことが原因だった。しかし、認定医が誰で、どのような経験や専門性を持つかは非公開。専門家からは「恣意的な審査の温床になる」と開示を求める声が強まっているが、国側は「審査に支障が出る」として応じていない。(中略)東京都東村山市の社会保険労務士、安部敬太さんは昨年3月、日本年金機構が開示した「認定医一覧表」を見てあきれ返った。開示されたのは認定医の県名と、精神疾患や内部疾患といった担当疾患のみ。氏名や勤務先、連絡先などは黒塗りにされていた。(中略)ただ、機構が取材に明らかにしたのは「300人」という人数のみ。障害年金の対象は、目や耳から精神、肢体、がんなどの新生物まで19分野あるが、認定医の専門分野や経験年数、選定方法さえ公表していない。(中略)国の障害認定基準がはっきりしないという問題もある。障害基礎年金を受けるには、検査数値などの客観的な指標だけでなく、「日常生活が著しい制限を受けること」も問われるが、中身は曖昧で、個々の認定医によって判断が分かれやすい。しかも、審査にあたって認定医と本人との面談はなく、主治医が書いた診断書を頼りにしているのが実情だ。障害年金に詳しい日本福祉大学福祉経営学部の青木聖久教授は「審査の透明性を高めるため、認定医は名前を含めて公開すべきだ」としたうえで、「誰が審査しても齟齬が出ないよう認定基準の客観性も同時に高めなければ、根本的な解決にはならない」と指摘している。

平塚市障害者団体連合会の会報が発行されました。こちらもお覧ください。

